

大学の世界展開力強化事業 取組概要 国際教養大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバル社会でリーダーシップを執る上で必須の英語によるコミュニケーション能力・交渉力、多様な価値観・意見を調整・統合するコーディネート力、事象の多角的分析力、そして、チームで仕事を遂行する上で必要な柔軟性を身につけた人材を輩出する。また、協働教育を通じた米国大学教員との学術交流により、教員の国際的資質を高め、専門性を強化する。

【構想の概要】

「日米協働課題解決型プロジェクト科目」を導入し、日米間の学生交流を通して、学生が国際社会で活躍する上で必要な各種スキルの習得を促進する。また、「日米教員協働プラットフォーム」を構築し、プロジェクト科目を協働でデザインする日米の大学教員の協働研究の場として位置づけ、国際的な学術交流と研鑽の機会を増やす。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 日米協働課題解決型プロジェクト(PBL: Project-Based Learning)科目の開講

本学と米国大学とが協働で構築・開講するPBL科目では、双方の大学から4~8名程度の学生がチームを構成し、PBL科目ごとに設定された異なるテーマについて、理論・概念等を講義で学んだ後、それらを統合的に実社会で応用するための訓練として調査・研究を日米両方のフィールドで行う。学生は、地域社会に根差した課題・問題群が複雑な相関関係にあることを学びつつ、日米の学生の異なる視点から、地域が抱える課題について学び、議論し、学生なりの「解」を探し出していく。

○ 日米教員協働プラットフォーム(FCA: Faculty Collaboration Arena)の活用

PBL科目実施に携わる教員を中心に、それぞれの大学で行われるPBL科目の事前検討から実施、授業評価に至るまでのプロセスを共有し、ワークショップや国際シンポジウムを通して研鑽していくことで、PBLについては協働教育の効果を探っていく。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ PBL事前履修科目の開講と、タイプの異なるPBL科目の設定

PBL科目を履修する学生に事前履修を推奨している事前履修科目(SOC285 Community Development)を開講したほか、PBL科目をより多くの学生に履修させるため、3タイプのPBL科目を導入した。



〈通常科目型PBL科目(JAS231: Preserving Local Folk Culture)でのフィールド活動〉

1. 交換留学連動型PBL科目

留学中または留学終了直後の本学学生と米国提携大学の学生が参加する。その大学で、事前または前後ともに、他の科目を履修する。(H25夏から開講)

2. 独立型PBL科目

交換留学非連動型。留学中、留学後、いずれの学生も参加するが、その大学で事前事後の履修機会はない。(H25夏から開講)

3. 通常科目型PBL科目

本学において完結するタイプ。通常学期に交換留学で本学に在籍中の留学生と日本人学生が参加する。(H25冬から開講)

○ FCAワークショップの開催(H24.6.23-27)

「Japan/US Collaboration Project-Based Learning Courses Workshop」を開催し、PBL科目を協働開講する米国大学の教職員を迎え、本事業で取組む課題解決型授業の定義やそれぞれの課題について協議した。また、フィールド調査地となる県内各地の視察を行ったほか、調査地の一つから行政担当者を招いての意見交換会も実施した。

※H25年度は、PBL科目の開講結果を発表する場としてシンポジウム開催を予定。



〈FCAワークショップ〉

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

交換留学連動型PBL科目および独立型PBL科目の実施では、本学の学生5~8名が米国大学へ留学する。米国で相手大学の学生とPBL科目の受講を開始し、米国サイドでの授業期間終了後、日本人学生および米国学生が本学へ来てPBL科目後半部分を履修する。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	-	5	27	33	28
学生の受入	-	-	27	33	33

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

英語での授業、交換留学がカリキュラムの根幹にある本学では、通常業務の一環として日本人学生の派遣および留学生の受入れを行っている。専任教員によるアドバイザー制度、国際センターによる総合的な留学支援体制、単位認定制度の確立など、従来の留学サポートに加え、新たに設けた展開力事業担当チームが事前履修からフォローアップに至る一連の期間において、学習および生活面をサポートする体制を整えた。また、留学生受入れについても、従来の生活支援・教務支援に加え、日米両国でのPBL科目の活動支援を行っていく。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

日米のフィールドリサーチ終了後、PBL科目の成果をそれぞれの調査地での報告会で発表する。また、FCAシンポジウムで個々のPBL科目の成果を学生および担当教員に発表させ、PBL科目の実施・評価など教授法に関する情報交換を積極的に行い、その成果を広く周知する。また、PBLおよびFCAの取り組みは、ホームページで随時公表していく。